

## 長期留学報告 ～學在北京～

北京師範大学 10F1037 福澤 学

今回の北京長期留学が始まる前の07年7月、私は高橋と一緒に桜美林大学と中国伝媒大学共催の全日本中国語カラオケ大会予選に出場しました。予選結果はなんと入賞で、北京での決勝大会出場権を獲得。これにより、留学渡航費用は全て大会主催側持ちとなったので、大変助かりました。カラオケ大会決勝の日程は、8月19日に八王子市の桜美林大学セミナーハウスに集合し、メンバーの顔合わせと練習、そして20日に成田から出国、21日は現地北京伝媒大学の決勝大会特設ステージで練習、22日に決勝大会というものでした。決勝大会では中国風の衣装を特注し身に纏い、また普段は芸能人などの化粧を担当している専門の美容師に化粧をしてもらい、とても濃い化粧をされたので、他のメンバーと笑いながら写真を撮りました。しかし、楽しいのも束の間、決勝大会の様子は中国国内のテレビで放送されるので、皆緊張した面持ちで最終調整に入り、私は相方の高橋と最後に振り付けの確認をして、いざ決勝に挑みました。決勝大会出場者の20組中、私と高橋のチームは13番目、なかなかいい順番です。決勝は第一ステージと第二ステージに分かれており、第一ステージをクリアした上位6組が第二ステージに進めるというものでした。私と高橋のチームはここでも上位6組以内に残ったので、急遽衣装変えと化粧直しをし、第二ステージへ挑みました。第二ステージでは、私の声が擦れる部分があり、最終結果は3位で大会が終わりました。ですが、今回の中国語カラオケ大会を通し、全国各地から集まった中国語学習者と知り合うことができ、また彼らは非常に優秀で、発音もとても正確できれいだったので、自分のモチベーションを高めることができました。そして、自分でも今回中国語の歌を練習する過程に於いて、発音の訓練等を重ね、成長することができたと思います。北京師範大学での留学開始前に大変貴重な経験をすることができました。



カラオケ大会終了後から9月初旬、北京師範大学での留学生登録手続きが始まるまで、私は高橋と天津旅行に行きました。北京から天津へは、荷物がたくさんあったこともあり、黒タクで移動しました。しかし、移動中の高速道路で、前方を走っていた乗

用車が大きな木の丸太を踏み、舞い上がった丸太が自分の乗った車のボンネットとフロントガラスを直撃し、死ぬかと思いました。もしフロントガラスが割れていたら確実に自分の顔面を直撃していたはずなので、本当に命拾いしました。その後高速道路上で警察を待ち、1時間程事故処理をした後再出発しましたが、中国の大型トラックは、その殆どが過積載なのでかなり恐ろしいです。「最大積載量積めるだけ!」といった感じでしょうか。今回の事故原因の丸太も確実に過積載トラックが落とした積荷だと思うので、強い憤りを覚えます。天津は、1年生の時に半年間留学で滞在した地。その天津南開大学の寮に一週間滞在し、1年前に留学で知り合ったクラスメートを訪ねたり、懐かしの通りを歩いたりしました。やはり、オリンピック開催の為か、偽ブランド市場の解体や、道路工事、物価の上昇等、1年前との変化を多少実感しました。天津は、首都北京の街並みと比べると多少田舎な感じがあり、落ち着きます。また、なんとなく安心感もあります。1週間の天津滞在を終え、高橋は彼の留学先である上海へ、私は私の留学先である北京へそれぞれ出発しました。私が北京へ戻る際は、荷物がたくさんあったので先輩の皿屋さんに天津にまで来てもらい手伝ってもらったので、とても助かりました。とてもいい先輩です。そして、31日の晩は黄先生が北京にいらしていたので、この機会に馬場さんも合流し、北京で老舗の全聚徳という北京ダックの店に行きました。そして、この日からは北京師範大学の新松公寓というマンションにインドネシア人のルームメートと一週間住むことになったのですが、彼は中国語をゼロから始める人で、英語もなかなか伝わらなかったのもので意思疎通にはとても苦労しました。朝は1時間程瞑想をし、祈り続け、夜はとても大きい声で教科書を音読するのです。ですが、この時に日本語の話せるインドネシア人と知り合い、私のインドネシア友人ネットワークがどんどん広がっていきました。このように北京師範大学での留学生活は幕を開けたのです。

ルームメートが中国語を全く話せないとなると、彼には失礼ですが、私にとっては大変なので、一人部屋に移りました。また、北京師範大学の多くの寮は幽霊が出るという噂が流れています。私の友達のインドネシア人は寮の中で心靈写真が撮れたというので見せてもらいました。深層ははっきりしませんが、不思議な写真でした。実際に自殺がかなり多らしく、入学式典時の国籍別説明会では警察の方が来て、くれぐれも自殺はしない様に念を押していました。その他、中国ではネットなどの情報規制があるので、日本人の私からすると理解できない部分があります。例えば北京師範大学の寮では、香港の放送局“鳳凰衛視”が日韓ドラマを放送中にいきなり北京師範大学独自の放送が割り込み、共産党の偉大さを伝える番組や、国民党と共産党の戦争ドラマなどが始まったりするので、民主主義社会で育った私からすると、一般公共放送の電波に割り込んで独自の放送を開始する行為の理解に苦しみました。このテレビ局は国営のテレビ局ではなく日本の株式会社に当たるテレビ局で、内容は国営放送と比べれば若干自由であり、台湾問題、国際関係を討論する番組等多いです。7時になると殆どの局が中央テレビの統

一したニュースを放送しているのので、日本のニュースのように、批判し合い、問題点を探る報道形式のニュースではないので、報道の統一、自由度のなさを感じました。“たけしのテレビタックル”（月曜夜9時、テレビ朝日系）のような番組は中国ではあり得ないことでしょう。

北京師範大学での授業にも慣れ、クラスメートとも打ち解けてきた10月初旬、国慶節の連休に入ったので、私は昨年引き続き今年も上海へ大好きなF1観戦に行きました。海外で見るF1はまた違った雰囲気がありとても楽しかったです。中国人に「写真を撮ってください」とお願いすると、快く受け入れてくれ、撮ってくれるのです。中国人の優しさに触れることができました。

1年間に渡る北京師範大学への留学前に立てた目標はHSK8級の取得、そして中国人や他国から来ている多くの留学生と交流し相互理解を図るということでした。中国では、自分が嫌でも中国語を使わなければならない環境におかれているので、このような環境が目に見えない形で少しずつ自分の中国語能力の向上に役立ちました。また、限られた時間や機会を最大限活かす為に、この一年間の留学期間中は皆勤です。1年間の学習の成果として、今年4月のHSK試験では念願の8級に合格しました。今回の留学を飾る集大成です。今後の更なる学習の動力にしたいと思います。

生活面では、週末になると中国人や他国の友人と飲みに出かけたり、交流して過ごしました。私は中国人と一緒に居ると必ず歴史問題の話題が出てきます。当時、私は中国人が何を言おうと自分の考えを変えるということはありませんでしたが、お互いの偏見や、歴史教育の違いから発生する矛盾には頭を悩ませました。例えば、ある日このように追及されました。「もし私のおじいさん乃至おばあさんが、あなたのおじいさんに殺されているとしたら、あなたは関係ないと言えるのですか？」と。私はその時答えることができませんでした。しかし、私はこの問題をそのまま終わらせたくなかったので、その後この問題を“報刊”という授業の新聞記事をまとめて発表する時間を使ってクラスメートに問いかけました。私は一体どう答えればいいのか。私のクラスは偶然にも多国籍のクラスだったので、いろいろな国の方の意見を参考にできました。結果は先生を含めて私に責任は無いで一致しました。今回はこのような結果になりましたが、私は現在の平和な日本、そして二度と過去の過ちを繰り返すようなことは無いということを知ってもらえるようにこれからも努力したいです。また、この経験を通して、歴史問題等に対して柔軟に物事を考えられるようになったと思います。

留學生活も残り僅かとなった08年5月中旬、社会活動の一環として、中国の農村にある、全日本空輸株式会社が資金援助をし建設された希望小学校に赴き、中国人の子供

たちと交流しました。中国の農村の生活水準は我々からは想像もできない部分がありますが、彼らは彼らで将来に向かってしっかりと夢を抱き、それに向かって日々努力しているのです。そして、本当に心から楽しそうな笑顔を浮かべて遊んでいる姿が印象に残っています。私はそこで、現在我々が忘れてしまったかのような“心”を改めて発見できました。また、ホームステイ先では熱烈な歓迎をされ、吐くまで飲まされ、中国人の“熱情”さを実感しました。

今後はこれら留学によって得た経験を自信に、さらなる中国語能力の向上に向けて努力し続けます。語学学習に終わりはありません。最後に、このような素晴らしい機会を頂きました名古屋学院大学に感謝致します。

結束了長達一年多的海外留學生活，回到日本後將是一個新的開始。對於未來，我會更加努力。



↑ 親愛的クラスメート



↑ えっ！？どこかで見たような見なかったような…